



公立大学法人島根県立大学広報誌 — オロリン

RORIN



島根県立大学
The University of Shimane

Vol.
07
2016.12



オープンキャンパスをサポートした浜田キャンパスの学生たち

P04 | 学長インタビュー | 本田雄一学長が語る「大学改革」

P13-14 | OB・OG「Glocal」 | 夢かなえ、地域で躍動

P11-12 | 学生活動紹介「doing」 | 交流が生み出す、新しい「何か」!

P01-04 | 特集 | 「改革」加速 松江に4年制学部新設へ

公立大学法人島根県立大学広報誌

RORIN

2016年12月1日発行

編集・発行 / 島根県立大学 企画調整室

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2 TEL.0855-24-2201 FAX.0855-24-2208 <http://www.u-shimane.ac.jp/>

無限の可能性を求め、新たなステージへ

2018年春 誕生

※設置認可申請予定(現在計画中のものであり、変更となる場合もあります) ※学部・学科名称は仮称

松江キャンパス

人間文化学部(4年制)
[保育教育学科/地域文化学科]

次の資格・免許が取得可能です。

[保育教育学科]

- ・保育士資格
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・小学校教諭一種免許状
- ・特別支援学校教諭一種免許状
- ・司書教諭資格

[地域文化学科]

- ・中学校教諭一種免許状(国語・英語)
- ・高等学校教諭一種免許状(国語・英語)
- ・司書・司書教諭資格

出雲キャンパス

看護栄養学部(4年制)
[看護学科/健康栄養学科]

次の資格・免許が取得可能です。

[健康栄養学科]

- ・栄養士免許
- ・管理栄養士(国家試験受験資格)
- ・栄養教諭一種免許状
- ・食品衛生管理者(任用資格)
- ・食品衛生監視員(任用資格)

詳細 <http://matsuec.u-shimane.ac.jp/special/>



島根県立大学の
取り組みや最新情報は、
ホームページでも
配信しています。
ぜひご覧ください。



島根県立大学
マスコットキャラクター オロリン

島根県立大学

検索

<http://www.u-shimane.ac.jp/>

「島根の将来担う人材育成」前面に改革加速

松江キャンパスに新学部開設、出雲キャンパスは学部改編

島根県立大学では、2018(平成30)年4月に、松江キャンパスへの新たな4年制学部の開設を柱とする学部・学科の改編を計画しています。「無限の可能性を求め、新たなステージへ」をテーマに、新たな改革をスタートさせます。巻頭特集では、学部・学科の改編計画とともに、松江、出雲両キャンパスの改革の取り組みについて紹介します。

松江Cに新学部を開設

松江キャンパスでは、保育教育学科(入学定員40人)、地域文化学科(同70人)の2学科で構成する4年制の新たな学部「人間文化学部」を開設します。現在、松江キャンパスには短期大学の健康栄養学科(入学定員40人)、保育学科(同50人)、総合文化学科(同140人)の3学科がありますが、このうち健康栄養学科を4年制に移行し、出雲キャンパスに移転します。短期大学部は新たに保育学科と総合文化学科の2学科構成とし、それぞれ定員を保育学科(入学定員40人)、総合文化学科(同40人)に見直し

ます。松江キャンパスでは、4年制大学と短期大学が併設することになり、学生数も約1500人増加します。

出雲Cは看護栄養学部

松江キャンパスから健康栄養学科が移る出雲キャンパスでは、看護学科単科の看護学部(4年制)を、看護学科(入学定員80人)と健康栄養学科(同40人)の2学科からなる「看護栄養学部」に改編します。健康栄養学科が加わることで出雲キャンパスの学生数も1.5倍に増えることになります。

このように、島根県立大学では総合政策学部がある浜田キャン

パスを含め、県内の3キャンパスに多分野にわたる学部が整備されることになり、教育環境が格段に充実します。

地方創生に向けて

島根県では、高校生の多くが卒業とともに進学や就職で県外に流出し、自然減とあわせて人口減少の大きな要因となっています。また、栄養保育の分野では、より専門的な知識

や技術をもった資格職が求められるとともに、社会が激しく変化する中で、それに対応できる課題解決力や論理的思考力、対話力などの資質・能力を持つ人材が求められてきています。

松江キャンパスを



新学部が開設される松江キャンパス

中心とした学部・学科の改編は、こうした背景を踏まえ、2013(平成25)年度から具体的に検討を始め、以後、2年以上にわたる議論を重ねたうえで決定したものです。高校生に対し県内に幅広い進学先の選択肢と、魅力ある教育環境を提供するとともに、教育研究を通して、地域で躍動・活躍し、将来にわたって地域を担っていく人材を育成していきます。



オロリン Q&A

こう変わる！県立大学

生まれ変わる松江キャンパスと出雲キャンパス。新たな学部・学科について、島根県立大学マスコミキャラクター「オロリン」が、松江キャンパスの岸本強副学長、出雲キャンパスの山下也副学長にインタビューしました。

◇保育教育学科◇

保育士+幼稚園教諭に加え、複数の資格取得が可能に！短大も存続へ



保育教育学科になるとどのように変わりますか？



岸本 保育士資格と幼稚園教諭一種の免許に加え、小学校教諭一種や特別支援学

校教諭一種の免許取得が可能になります。複雑化多様化する保育教育現場では、乳幼児から小学校までの子どもの発達段階を見通した保幼小連携教育やインクルーシブ教育(障がいのある子どもを含むすべての子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を「通常の

学級において」行う教育)に対応できる保育者・教育者が求められています。保育教育学科では、これらに対応できる高い専門的知識や技術を備えた人材を育成していきます。その他、司書教諭の資格取得も可能となります。



短期大学の保育学科も存続するのですか？



岸本 島根県は合計特殊出生率が1.68人で全国2位、育児をしている女性(25

〜44歳)の有業率は74.8%で全国1位であるように、仕事をしながら子育てができる住みやすい県と言われています。このように子育てしやすい環境を今後も支えていくためには、保育士の数

◇地域文化学科◇

「文化の活用」の学びを導入！「しまね文化論」など独自科目



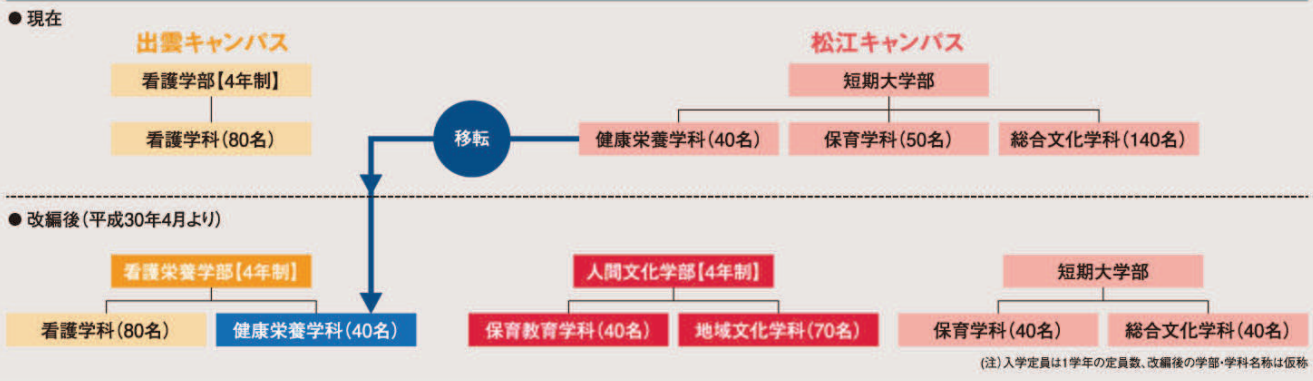
新設される地域文化学科と、短期大学の総合文化学科の違いはどこですか？



岸本 地域文化学科の大きな特徴として、文化を社会の中で活用していく一つの手法として「観光まちづくり」の

学びを取り入れるところにあります。ここで言う「観光」とは観光者のためのまちづくりではなく、地域社会生活を大事にしなが、地域の宝(文化)を発見し、その価値を高めて他者に伝え、他者と地域がつながることによって地域社会が活性化していく、という地域づくりの考え方によるもの

【改編の概要】





本田雄一学長

「今回の学部・学科再編は、一連の大学改革の中で、どのような位置付けですか。2007年の3キャンパスの経営統合、法人化が最初の大改革です。主に政策立案のできるジェネラリスト(総合職)を養成する4年制の浜田キャンパスでは、法人化時に大学院や北東アジア地域研究センターといった人材養成・研究機関が整っていた一方、看護師・保健師・助産師などの看護人材を養成する出雲キャンパスと、栄養士・保育士・図書館司書といった資格専門職を養成する松江キャンパスでは、資格の高度化に対応した教育が求められるようになりました。」

学長インタビュー

「地域ニーズに応え、不断の改革に取り組む」

「今回の学部・学科再編は、一連の大学改革の中で、どのような位置付けですか。」

このため、出雲キャンパスは2012年に4年制化、その4年後に大学院の開設を実現しました。今回の松江キャンパスの4年制学部開設を中心とする学部・学科再編によって、3キャンパス全てに4年制学部が設置され、小規模ながらも多分野の学部学科を擁する総合大学の体制が整うこととなります。

改革の先にある大学の将来像についてお聞かせください。

本学は、大学憲章に掲げる「地域」「国際」をキーワードに、国際的視野を持ちながら地域で活躍する「グローバル人材」の育成を進めてきました。大学憲章の理念、目的を実現していくためにも、専門の異なる3キャンパスが真の相乗効果を発揮し、教育・研究を通して地域のニーズに込めていきます。

そのための課題になるのが、キャンパス間のさらなる連携、一体感の醸成です。キャンパス間での単位互換や教員交流の充実も今後検討すべき課題です。社会情勢の変化に的確に対応し、不断の改革に取り組んでいきます。

です。また、オープンシオンとして中学校教諭一種(国語・英語)、高等学校教諭一種(国語・英語)、司書、司書教諭の資格免許の取得が可能となります。

対して、短期大学の総合文化化学科では、現在「文化資源学系」「英語文化系」「日本語文化系」の3つの系がありますが、これを統合し、社会人の即戦力として必要とされる日本語力やコミュニケーション力の育成、資格取得の支援を中心としていきます。



地域文化学科はどんなカリキュラムになりますか?

1・2年次を中心に「学部・学科基礎科目」を設け、基礎教養のほか、島根の文化の学び直しにより地域への愛着心を育みます。次に、専門的な学びの導入として「専門基幹科目」を設け、文化の「発見」「体験」「活用」からなる地域文化の学びから、社会に出た後も文化を社会の中で活用していただける能力を養います。また、2年次からの専門科目では「日本文化」「国際文化」の2つの専門履

修コースに分かれ、それぞれ文化、歴史、言葉などの面から専門的な知識を修得し、相対的に地域の文化を見る目を養います。最後に4年間の学びの集大成を「地域文化プロジェクト」としてまとめていきます。

健康栄養学科

山陰初の管理栄養士養成課程／看護学科と連携



出雲キャンパスに移転する健康栄養学科は、何が変わりますか?

まず、なんといっても山陰初の管理栄養士養成施設となることではないでしょうか。管理栄養士は、健康な方から病気を患っている方、高齢で食事がとりづらくなっている方まで、一人一人に合わせ専門的な知識と技術による栄養指導や給食管理を行うことができる国家資格ですが、卒業と同時に国家試験受験資格を取得することができますようになります。また、学校における食育の推進や給食管理などを行う栄養教諭の免許も新

たに取得できるようになります。島根ならではの特色がありますか?



山田 高齢化先進県である島根県では、地域住民、特に高齢の方の健康寿命を延ばし、いつまでも元気で暮らしていくために、保健・医療・福祉の様々なサービスに関わる専門職の連携がますます重要となってきました。また、医療機関では、複数の医療専門職が連携して、治療やケアを提供するチーム医療に取り組みられています。中でも栄養サポートチームでは、管理栄養士が中心的な役割を担っています。そこで、看護栄養学部では「島根の地域医療」「チーム医療」といった両学科共通の科目を設け、関連職種との連携を重視したカリキュラムを導入します。また、中山間地域や離島を抱える島根では在宅医療のニーズが高まっていることから、専門科目に「在宅栄養ケアマネジメント」を設けるなど、在宅栄養ケアの専門的な実践能力を育成していきます。

高校生からの「期待の声」

松江キャンパスで開催されたオープンキャンパス会場で、改編後の第1期生となる高校2年生に新学部や新しい学科構成に対する期待を聞きました。

図書館司書を目指している県立平田高校2年の川島和華さんは「新設される4年制の人間文化学部地域文化学科は進路選択肢のひとつ」と話します。「短期大学の総合文化学科でも司書資格取得は可能でしたが、4年制化でより専門的に学ぶことができようになり、新たに司書教諭資格が取得できるようになる点も魅力です」と期待を込めます。

一方、友人の同2年鈴木瑠奈さんは2年制で継続する総合文化学科に強い興味を示し、「地元の短大を希望していたので、短期大学部が継続されると聞き安心した。英語が好きなので、ネイティブの先生方による少人数クラスで実践的な英語力を身につけたい」と話します。

4年制の保育教育学科の受験



学部・学科改編をテーマに開かれた松江キャンパスのオープンキャンパス(2016年9月)

を検討している松江市立女子高校2年江藤鈴菜さんは「取得可能な資格が充実するのが、一番の決め手」と話します。中学校の時、保育所でボランティアをした体験がきっかけで、子どもに関わる仕事への関心が高まりました。「障がいのある子どもを含むすべての子どもに対し適切な教育支援を通常学級で行うインクルーシブ教育に関するカリキュラムにも興味があります」と話しています。



健康栄養学科棟新築完成後の出雲キャンパス



ゼミ担当教員と保護者、学生との個人面談

地域とつながる 世界へひろがる

浜田 キャンパス

HAMADA Campus <http://hamada.u-shimane.ac.jp/>

学生・保護者・大学が連携し、進路について考える「懇談会」

キャリア教育に力を入れる浜田キャンパス(総合政策学部)で10月30日、在学生とその保護者を対象にした「保護者進路懇談会」が開かれました。学生と保護者、大学が共に就職について考える場として毎年1回開いており、今年度は131人が参加し、今後の進路について認識を深めました。

企業講演「期待を超える感動を提供できる人材求む」

懇談会では、学外から初めて県立大の理事(非常勤)に就いた島根電工(本社・松江市)の荒木恭司社長が講演し、「社員第二」の経営方針を示しました。同社は住宅設備のトラブルを解決するサービス「住まいのおたすけ隊」などで業績を伸ばすなど全国的に注目を集めており、荒木社長は「企業の最大



講演する島根電工の荒木恭司社長

の地域貢献は雇用。就職したいと思ってもらえる企業にすることが経営者としての務め」と説明。毎年、県立大からの採用実績があり、企業側が求める人材として「試験成績の良し悪しでなく、顧客にとつて唯一の存在となり、期待を超える感動を提供できる人材を求めている」と呼び掛けました。

学生発表

「留学は大きな自信と糧に」など

この日は在学生3人が就職活動や留学体験、地域での活動について発表。このうち人材サービス企業に就職が内定した高家誠志さん(4年)は「きめ細かな面接対策などキャリア支援室のサポートが大きかった」と振り返りました。また、中国・吉林大学に1年間語学留学した河野柊佑さん(3年)は「留学は大きな自信と糧になった。中国語を生かし海外の人と接する仕事に就きたいと考えている」と話し、保護者に対して「お子さんが留学を要望されたらぜひ前向きに検討してほしい」と要望しました。

懇談会ではゼミ担当教員と保護者、学生との個人面談もあり、

参加した男子学生(1年)の保護者は「さまざまなキャリアサポートがあり心強い。学生生活の中で自分にあった進路を見つけてほしい」と期待していました。

総合政策学部ではキャリアセンターの就職支援や、働く意味を1年次から教える一貫したキャリア教育が奏功。総合政策学部の2015年度の就職率は99.1%で、06、07年度の99.5%に次ぐ高い水準となりました。また、県内出身者の県内就職率も57.8%と、前年度比9.4ポイント上昇し、地域に貢献できる人材の育成にも力を入れています。



就職活動や留学体験、地域活動などをテーマにした学生発表

Research Report

研究レポート

政治学(日朝関係史、日本政治史)

「対馬宗家文書」の史料調査に注力

石田 徹准教授

日朝関係の変遷 交流の軌跡を読み解く

きっかけは「違和感」

19世紀を中心とする日朝(日韓)関係史、日本政治史を専門とする石田徹准教授(政治学)は、日本の明治維新以前(前近代)における日朝関係の変容、なかでも江戸時代に幕府と朝鮮王朝との間の外交・交易の実務を担当した対馬藩(現長崎県対馬市)と、朝鮮の関係について実態把握に力を注いでいます。

観研究が重要だと痛感した」といいます。

現在、メインとするのは幕府と朝鮮王朝



講義をする石田徹准教授

の仲介役となった対馬藩宗家に伝わる資料群「対馬宗家文書」(約12万点)の調査。長崎県立対馬歴史民俗資料館や韓国国史編纂委員会など日韓両国での史料収集・分析を続け、日朝外交の実態の解明に取り組んでいます。

例えば、朝鮮国王の象徴として拝礼の対象だった「殿」の字を刻んだ木牌「殿牌」に、対馬の人々がかすくす姿が描かれた王朝の屏風絵について「幕府と朝鮮王朝が建前としては対等な関係を維持できていたのは両国の板挟みになりながら、交易を成り立たせるために仲介役を務めた対馬藩のおかげ」と指摘し、「二大名による外交の仲介は国民国家の枠組を前提に成り立つ現代秩序では考えられないが、この時代の秩序だった。こうした秩序・役割の変遷をさらに探りたい」と語ります。



タタールスタン共和国科学アカデミー歴史研究所とNEARセンターによる国際学術会議でスピーチする石田徹准教授(2016年8月、ロシア連邦内タタールスタン共和国カザン市)

さらに大学院在学中の2001年から2年間は韓国に留学して朝鮮側の史料収集に没頭。折しも当時は小泉首相の靖国神社参拝、歴史教科書問題が大きな外交問題に発展した時期で、日本側の朝鮮観と朝鮮側の日本観、対外

北東アジアの共同研究にも参加

今後はこれまで通信使の影であまり注目されてこなかった、より実務的な任務を持つ「訳官使」についての研究を進める一方、北東アジアの近代化の歴史や課題を多角的な視点で研究する予定です。

本年度スタートした人間文化研究機構(東京)の「北東アジア地域研究推進事業」では、研究拠点に選ばれた県立大学の北東アジア地域研究センター(NEARセンター)の研究員として参加。国内外の大学・機関と連携する6年間の大型研究プロジェクトだけに、「近代移行期の日本の外交概念・空間の形成などについて、特に対馬、日朝関係を軸として研究を深めたい」と意気込んでいます。



総合政策学部 総合政策学科(浜田キャンパス)

石田 徹准教授

専門分野/日本政治史、日朝(日韓)関係史(政治・外交・思想)
早稲田大学大学院政治学研究科修了。博士(政治学)。国立公文書館アジア歴史資料センター調査員、早稲田大学政治経済学術院助教などを経て、2011年4月島根県立大学北東アジア地域研究センター一任託助手(韓国籍)として着任。2016年4月より現職。東アジア近代史学会、日本政治学会、政治思想学会などに所属。東アジア近代史学会理事。

I

「ひと」を支え「地域」を支える

出雲 キャンパス

IZUMO Campus <http://izumo.u-shimane.ac.jp/>



「いずも健康市民大学」の講義風景

サテライトキャンパス「いずも健康市民大学」が人気
中心テーマは「認知症・がん・食と健康」

出雲キャンパス(看護学部)がJR出雲市駅前のサテライトキャンパスで2016年4月に開講した「いずも健康市民大学」が人気を集めています。専門の医療健康分野だけでなく、浜田、松江キャンパスの教員や、企業経営者、神職など地域講師陣を迎えての多彩なプログラムが好評です。

定員を上回る申し込み

9月上旬、「認知症予防最前線」をテーマにした市民大学の会場は満席。認知症予防に有効とされる魚介やエゴマ油の効能などを説明した講師の山下一也出雲キャンパス副学長は、講義後も相次ぐ



「認知症」をテーマにした山下一也副学長の講義。講義後も受講者から質問が相次いだ

受講者の質問に「有効な食品を取り入れたバランスの良い食事と適度の運動といった生活習慣の積み重ねが認知症予防につながります」と丁寧に答えていました。

市民大学は半年ずつの前後期課程で各全15回、3分の2以上の出席で修了証が発行されます。市民を交えて検討した講座内容は、住民の関心が高い「認知症」「がん」「食と健康」の3テーマを2〜5回ずつ複数開講し、ほかに中高年のヨガ、ワークライフバランス、方言と文化など幅広く設定。前後期ともに定員20人を上回る申し込みがあり、前期は12人が修了しました。

課題は若い年齢層への対応

昨年の試行講座から続けて受講している出雲市神原町の白根洋子さん(64歳)は「7人家族の食事を担う立場なので、特に食と健康に関心があります。大学の先生の専門的な話なので説得力があり、娘や孫に教えたり、食油の選び方

を実践したりしています。洋子さんに誘われ前期途中から受講している夫の重雄さん(68歳)は「健康だけでなく、宴会の代名詞のように思っていた直会(ちかひ)の祭司(まつり)としての意味合いなど文化的テーマもあつて面白い。この年になって新しいことが学べるのが嬉しい」と、後期も夫婦で受講しています。

市民大学を運営するしまね看護交流センター長の吉川洋子教授は「体とともに、心の健康づくりや文化的テーマを盛り込み、浜田、松江キャンパスの協力も得て全学的な講座が実現できました。課題は若い年齢層への対応。平日の日の中の開講なので受講生は60代以上が大半で、より幅広い年代に利用してもらえよう検討したい」と話しています。



受講者の白根重雄さん(左)、洋子さん夫妻

Research Report

研究レポート

認知心理学 橋本 由里准教授
学生対象に情動知能を調査
看護学生の特性分析、教育に応用

橋本由里准教授の専門は、知覚、記憶、理解、学習、推論、問題解決といった人間の認知機能を研究対象とする「認知心理学」。主に実験によって人の心に特定の影響を与え、その際の行動を調べることで心の動きを科学的、客観的に明らかにしていきます。「人間のあらゆる行動が研究対象。実験によって



心理実験の様子

「なぜそうなるのか」の根拠を示し、解き明かしていくところが面白い」と、研究の魅力を語ります。

自覚できない「心の動き」解明

大学時代は視線や表情、ジェスチャー、会話の間など、人間関係に影響を与える非言語コミュニケーションについて研究。さらに大学院で研究を続ける中で、このような他人と接触する際に無意識に出る視線行動などを少し意識して変えるだけで人間関係が円滑になることなどを突き止め、そこから「この無意識の反応をつかさどる『心』の部分を知りたい」と心理学の研究に行き着きました。「人間は思っているほど自分の心を理解できていません。自分でも分からない心の動きや性質を明らかにしていくのが醍醐味です」と語ります。



応についての研究で、実験による分析を重ねてきました。「例えば、他者の視線方向につられて同じ方向を見るという現象は、自動的な注意の反応であることがわかっています。他者の視線方向の先には、興味関心の対象があつたり、危険なものがあつたりします。このように、他者の視線は、常に重要なものがあることを示す重要なサインとなっています」と話します。

「心理学を社会に還元したい」

県立大学看護学科に着任後は、学生を対象に「心の知能指数」といわれる情動知能(EQ)の調査を始めました。いわゆる「頭のよさ」を示す知能指数(IQ)に対し、感情察知・感情コントロール・対人関係スキルなどを総合的に評価するもので、仕事に取り組む姿勢や人間関係への関心度合いなどを「感情」という観点から測定する指数です。現実社会での成功にはIQ以上に必要な能力とも言われています。「これまでの実験では看護学生はEQが高く、特に共感性が高い傾向が出ています。これは看護職に必要な特性である一方、ス



臨床心理学の講義をする橋本准教授

「この調査を機に『心理学を社会に還元したい』と、より強く考えるようになりまし」と橋本准教授。「学級崩壊が増えた頃から教育現場でもEQ教育が注目されるようになりました。今後はフィールドを小中学校、高校にも広げて研究を進めていきたいです」と構想しています。



看護学部 看護学科(出雲キャンパス)
橋本 由里准教授
専門分野/ 認知心理学
神戸大学大学院総合人間科学研究科修士(学術)、神戸大学学術研究員などを経て2009年4月、出雲キャンパス(松江)看護学科(当時)に准教授として着任。研究テーマは「視線と注意」「共同注意」など。日本心理学会、日本感情心理学会、日本教育心理学会などに所属。

M

明日への力を蓄え 自分を創造する

松江 キャンパス

MATSUE Campus <http://matsuec.u-shimane.ac.jp/>



学生図書委員のメンバー

図書館運営に学生の視点生かす学生図書委員会 司書を志す学生の実践的な業務体験の場として活用

約12万冊の蔵書を誇る松江キャンパス図書館。その運営に学生の視点を生かそうと、2010年度に学生図書委員会が設置されました。司書養成課程を開設する総合文化学科日本語文化系コースの学生が多く所属し、実践的に司書の仕事を学ぶ場にもなっています。

図書イベント企画、地域交流も

委員会は本年度、1年生10人、2年生12人の計22人で活動しています。図書館新聞やSNSを利用した情報発信をはじめ、読んだ本の感想などを入れたポップや本の



担当する松江市立図書館移動図書館「本のかけはし だんだん号」を後輩に紹介する学生図書委員会OGの永井さん=写真員中央=(2016年7月)

帯を作成して出来栄を競う読書マラソンなど学生向けの図書イベントを企画。館内の学生図書委員推薦コーナーに置く本の選書も担当しています。「一般開放している絵本専門のおはなしレストランラ イブリー」で絵本を使ったクイズを企画したり、市民との合同読書会の開催や古本市に参加したりと、地域との交流にも積極的に取り組んでいます。

司書に通じる活動、貴重な体験

司書を志す副委員長の田平亜香里さん(日本語文化系2年)は「選書や子どもに本を紹介する催しなど司書の仕事に通じる活動が多く、貴重な体験」と話します。

すでに夢を実現した先輩もいます。2015年に念願だった松江市立図書館司書となったOGの永井三千さん(22)は、幼い頃から読み聞かせに触れてきた経験から、本の楽しさを伝える仕事を目標しました。今は児童書と移動図書館を担当し「子ども

向けの絵本クイズなど図書委員会での数々の体験が今に生きています」と振り返ります。本年度の松江市立図書館30周年記念企画では小泉八雲関連企画を担当。「司書は本と人とをつなぐ仕事ですが、地域の方々の『学び』を支援することも重要な役割。大学で学んだことを幅広く仕事に生かしたい」と語ります。

近年の図書館では、本の貸し出しだけでなく、文献・資料の探しの情報提供するレファレンスサービスの充実も大きな役割です。委員長の南美穂さん(日本語文化系2年)は「司書課程で利用者の要望に応えるスキルを学び、委員会活動でさまざまな交流を経験したことは、他の業種に進んでも役立つと思う」と、図書館運営を通して得た「学び」の成果に手応えを感じています。



松江市内で開かれた「BOOK在月」での一冊古本市で子どもたちに絵本を紹介する委員(2015年10月)

Research Report

研究レポート

文化人類学 塩谷 もも准教授 インドネシアの文化人類学的研究 服飾文化、東南アジアのイスラム調査

きっかけは、民族音楽ガムラン

インドネシアのジャワ島を中心に、女性に注目し、文化的特徴や社会文化の変容について研究を行ってきた塩谷もも准教授(文化人類学)。現在は、イスラム教徒向けファッションとパティック(ジャワ更紗)について研究しながら、インドネシアの価値観の変化、アジアの他地域との比較研究、イスラムの暮らしを対象とした研究を進めています。



ジャワ島中部の村で布の調査をする塩谷准教授(右)(2015年8月)

インドネシアとの出会いは、海外の文化に関心の強かった大学時代。興味の対象は当初欧州でしたが、授業科目でインドネシアの民族音楽ガムランに魅せられ「この国をもっと知りたい」と翌年夏の1カ月間、ジャワ島中部の都市スラカルタへ。家庭料理や屋台など多彩な食に魅了され、卒業研究にインドネシアの食文化を選びました。進学した大学院でさらに調査研究を重ねる中で儀礼食、女性やムスリムの暮らしに興味を広がりました。2001年から約2年間の現地調査を経て、以来繰り返し同国を訪れ、ジャワ島をベースにフィールドワーク調査を続けています。

多様性と寛容さ

現在の研究の題材は、ヴェールに代表されるイスラムファッションと、ジャワ島に伝わる布パティックで、グローバ



ル化とアイデンティティについて考察しています。「1990年代はミニスカートが流行し、ヴェールやムスリム服を着る若い女性はほとんどいなかった」というインドネシアにおいて、このファッションは2000年代以降、同国内で着用者が増加します。その急激な変化を目の当たりにしたのが2000年代半ばの現地調査。インドネシアのイスラムファッションは、全身を覆う黒やグレーのヴェールではなく、カラフルな色柄で形も多様です。一方、パティックは2009年にユネスコ無形文化遺産登録で再評価され、地域や世代を超えてインドネシアを象徴するものとして再び広く着用されるようになりました。イスラムファッションとパティックは、共に今では世界各国に輸出されるグローバル商品になっています。「世界一のイスラム教徒人口を抱えるインドネシアは同時に多民族国家でもあり、民族や地域で文化的特徴が異なる。宗教も文化も多様なものを受け入れる寛容さが社会にあり、それがファッションにも現れている」と指摘します。

文化人類

学の魅力については「多様な研究テーマを扱い、フィールドワークに重点を置き、自分と他者の文化の共通点と違いを認識することが大切な学問。違いを楽しむこと、フィールドワークで自ら調査することが大切」と学生に繰り返し伝える塩谷准教授。今後、取り組みたい研究テーマは、2020年の東京五輪に向けてさらに増加することが予想されるイスラム教徒の訪日に対応する国内の受け入れ体制。「日本でなじみのないイスラム教徒を含め、異文化理解につなげられたら」と考えています。



インドネシアのムスリム向けファッション専門店に掛けられているは色とりどりのヴェール(2015年8月 塩谷准教授撮影)



短期大学部 総合文化学科(松江キャンパス)

塩谷 もも准教授

専門分野/文化人類学(東南アジア研究)
東京外国語大学大学院単位取得退学。博士(学術)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所産学連携研究員などを経て2009年4月、鳥立大学短期大学部総合文化学科に専任講師として着任。2012年4月から職、日本文化人類学会、東南アジア学会などに所属。

学生活動紹介

do
ing

[ドゥーイング]



交流が生み出す、新しい「何か」!

人と人が交流することで、新しい「何か」が生まれます。新しい出会い、新しい興味、新しい目標。学生たちが、学内で、地域で取り組むサークル活動も、さまざまな交流を通じて、新しい「何か」を生み出しています。

日本舞踊を通して
日本の伝統文化を学んでいます。

松江キャンパス 日本舞踊サークル部長 大槻 美冬さん (総合文化学科2年)



日本の伝統芸能である日本舞踊について学ぶサークルです。藤間流「藤ひら会」会長の藤間平ノ丞先生(松江市在住)を招いて週1回の稽古を重ね、毎年秋の大学祭や地域の催しなどで練習の成果を披露しています。

日本舞踊では、技術を磨くことと同様に礼儀作法を大切にします。現役の部員4人全員が初心者からのスタートですが、基本動作の習得だけでなく、着物の

着付け、優雅な身のこなしや正しい姿勢、挨拶など実生活にも役立つ美しい立ち居振る舞いを身につけようと頑張っています。

また、海外からの留学生に日本舞踊を教える機会もあり、私自身は海外研修先の



写真上右から大槻さん、2年の副部長宮崎詩織さん。下右から1年の吉川美優さんと丸瀬彩花さん。

インドや中国で現地の大学生に舞踊と着付けを披露し有意義に交流することができました。今後もある機会を利用して、日本の誇れる伝統芸能、文化でけたらと考えています。



大学祭「飛鳥祭」のステージで「阿国念仏踊り」を披露する部員(2016年10月)



【松江】日本舞踊サークル



【浜田】しまね防犯サークル SCOT



【出雲】フットサルサークル

防犯意識の広がり願い夜間パトロール
地域の安心安全に役立ちたい。

浜田キャンパス しまね防犯サークルSCOT代表 小林 雅弘さん (総合政策学部2年)



SCOTは2009年に発生した平岡都さんが犠牲となる痛ましい事件を受け、2年後の11年に発足した防犯ボランティアサークルです。現在1年生から4年生まで15人が所属し、事件の情報提供を呼び掛ける活動や警察や地域の防犯組織と協力して大学付近の住宅街、学生寮周辺を巡回する週2回の夜間パトロールを行っています。

最近では子どもの安全を守る活動を重視し、大学近くの三階小学校など3つの小学校の各校区の防犯マップを作成して全児童に配付



週2回夜間防犯パトロールを行っているメンバー



SCOTのメンバー

したほか、今年から児童の下校を見守るあいさつ運動を始めました。メンバー有志は警察が委嘱する民間ボランティアの少年補導員としても活動し、夜間の声掛けなど未成年の非行防止にも力を注いでいます。これらの活動に対して昨年度は県民いきいき活動奨励賞を受けました。今後も地域の安全に結び付く活動を推進していきたいと思っています。

フットサルを通じて
たくさんの方との交流が生まれています。

出雲キャンパス フットサルサークルサークル長 安田 伊織さん (看護学部2年)



2010年に発足したフットサルサークルは競技経験や男女、学年を問わず誰でも気軽に参加できる自由な雰囲気のあるサークルです。メンバー51人は男女が約半々で、一緒に練習しています。ほとんどがフットサルやサッカーの未経験者ということもあり、フットサルを「楽しむこと」が活動の一番の目的です。「ちょっと体を動かしたい」という初心者から、全日本大学フットサル選手権大会島根県大会



週2回集まりゲーム形式の練習を楽しむメンバー

会に出場するメンバーもいたりさまざまなですが、水曜と土曜の週2回、学内の体育館に集まり、主にゲーム形式の練習を楽しんでいます。練習は任意参加で、メンバー以外の学生の参加も多くあります。創設メンバーをはじめとしたOBOGの方々には練習や大会のサポートをしていただいています。フットサルを通じて先輩も交えた多くの交流が生まれています。



第12回全日本大学フットサル選手権大会島根県大会に参加したフットサルサークルのメンバー(2016年6月、松江市玉湯体育館)

島根県立大学未来ゆめ基金へのご協力に心よりお礼申し上げます

「島根県立大学未来ゆめ基金」につきまして、平成28年5月1日から平成28年10月31日までの間に、下記のとおり個人73名、法人・団体等11名の皆様から総額5,911,000円のご寄附をいただきました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。ご寄附をいただきました皆様に感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

【個人からのご寄附】

家本 賢	佐野 恒政	藤井 秀樹
池上 恭子	清水 麗子	二見 信子
伊藤 睦	曾田 広	堀江 英政
今地 千代枝	園山 玲子	松本 一雄
石見 治彦	竹内 俊勝	松本 千秋
植竹 佳子	中尾 れい子	馬庭 猛
江藤 柚香	西脇 正子	宮崎 尚子
遠藤 洋子	橋本 昌育	山崎 裕子
大石 宗男	原 恭子	山本 正敏
小村 公	日野 綾子	吉野 隆子
桑原 佳子	廣江 恵子	若林 やよい
佐野 綾子	藤井 信子	渡辺 育子

【法人・団体等からのご寄附】

株式会社伊原組	浜田ガス水道工事株式会社
株式会社はらぶん	ホクサン厨機株式会社
共立商事株式会社	まるなか建設株式会社
山陰中央新報いすみ開発株式会社	有限会社原印刷
島根電工株式会社	

※五十音順、敬称略
 ※ご寄附をいただいた皆様の中で、ご芳名の公開を希望されない方につきましては掲載しておりません。
 ※申込書は本学ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますのでお問い合わせください。

事務局財務課 TEL: 0855-24-2218
 申込パンフレット

PRESENT

ご意見・ご感想をいただいた皆様の中から抽選で、「お茶の三幸園」しょうが茶ティーバッグを10名様にプレゼントいたします。ご意見は、本誌差し込みハガキ、または、メールにてお寄せください。



※当選者のお知らせは発送をもってかえさせていただきます。
 ※応募締切/平成29年2月10日(金)必着

■メールでの投稿はこちら

島根県立大学 広報誌オロリン事務局
 E-mail: kikaku@admin.u-shimane.ac.jp

編集後記

オロリン第7号を手にとっていただき誠にありがとうございます。今号の特集では、「大学改革」をテーマに本学の学部・学科改編についてご紹介しました。地域のニーズに応え、しまねの将来を担う人材を育てていくため、島根県立大学は新たなステージへ踏み出します。ぜひご注目ください! 広報誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。「オロリンVol.8」は2017年6月発行予定です。どうぞお楽しみに!



総合政策学部総合政策学科
 2015年9月卒
八田 裕貴さん(24歳)
 邑南町(旧石見町)出身。2016年4月、邑南町職員に採用。

高校3年の夏に参加した県立大学のオープンキャンパスで、公務員志望の思いを強くした。フィールドワークで課題を探り、政策提言する模擬授業を体験し「これだ。自ら考え実践する、そんな行動的な行政マンになる」と決意した。入学後は主に伝統文化の活用を研究し、卒業研究で石見から北広島をつなぐ神楽ツアーによる活性化を提案した。今春、念願の邑南町職員に採用され、東京パラリンピック合宿招致推進室でフィナンランド・ゴールボールチーム招致に奔走中。「先進的福祉や文化など幅広く学ぶ機会にしたい」と意気込む。



島根県立島根女子短期大学
 家政科(当時) 2008年3月卒
赤名 奈緒子さん(28歳)
 雲南市出身。栄養士として雲南市立病院等を経て、2014年から松江赤十字病院に勤務。この間2011年に管理栄養士資格を取得。

食に関わる仕事への関心から家政科で食物を専攻、臨床栄養学に興味を持った。「食事を通して健康づくりや病予防、治療ができるやりがいのある仕事」と感じ、目標とした病院勤務の栄養士となった。3年間の実務を積んで管理栄養士資格を取得し、2年前から栄養指導で定評のある松江赤十字病院に勤務。医師、管理栄養士ら専門スタッフが集まる栄養サポートチームの一員として患者と向き合う。「食事療法の中でも食事を楽しめる方法はある。医療知識をさらに深め、治療のお手伝いがしたい」と全力で取り組む日々だ。



何でも気軽に
 相談してもらえる存在に



子育て支援センターの離乳食教室に合わせて、身体計測や育児相談に応じる三谷さん(右)

中学校時代の「保健室の先生」に憧れて養護教諭を志し、看護学科から保健師と養護教諭2種の資格が同時に取得できる専攻科(公衆衛生看護学)へ進んだ。「その先生のように、何でも気軽に相談してもらえたい存在になりたい」との思いの原動力は、今も変わらない。保健師に興味を抱いたきっかけは、病院実習での経験だった。「患者さんの闘病生活を目の当たりにして、つらい思いをする人が少なくなつてほしいと思った。病気になる前に予防し、心身の健康増進を手助けする保健師の仕事に次第に魅力を感じるようになった」という。市町村の保健師になれば子どもから高齢者までさまざまな年代の健康増進に関われると思い、行政保健師を選択した。



短期大学部看護学科
 2012年3月卒
 専攻科(公衆衛生看護学専攻)
 2013年3月修了
三谷 紗也佳さん(26歳)
 大田市出身。2013年4月、江津市保健師に採用。健康医療対策課を経て、今年4月から子育て支援課で乳幼児保健などを担当。

高齢化が進行する県西部の行政保健師を希望し、江津市に採用されて4年目。最初の3年間は主に高齢者の介護予防を担当し、今春、子育て支援課に異動した。乳幼児から就学前児童の健康増進に関わり、育児相談や個別の自宅訪問など業務は多岐にわたる。「保健師の対象は乳児から高齢者まで幅広く、年齢によって相談指導内容が異なるため、幅広い知識と視野が求められる。まだ力不足で『本当に役に立っているのか』と自分をもどかしく思うことも多いが、地域住民の健康づくりに力を尽くしたい」と、仕事への意欲を語る。



夢をだいて、キャンパスから世界に、地域に。
**グローバルに活躍する
 県大OB・OGたち**